

# IR REPORT

第60期 報告書  
2022年4月1日～2023年3月31日



ウェーブロックホールディングス株式会社  
Wavelock Holdings Co., Ltd.

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援、ご厚情を賜り、心よりお礼申し上げます。

### 2023年3月期の業績について

まずは、前事業年度である2023年3月期の当社グループの業績についてご報告いたします。

売上高は前期比7.5%増の225億84百万円、営業利益は同46.7%減の3億46百万円、経常利益は同20.4%減の7億18百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同254.4%増の23億21百万円となり、増収大幅営業減益の決算となりました。

これは、原材料費、エネルギーコスト、副資材費等の大幅な上昇を受け一部販売価格への転嫁を行ったことや前期より㈱エイゼンコーポレーションを連結子会社としたこと等により売上高は増加したものの、販売価格への転嫁がコスト増に追いつかなかったことや販売数量の減少に伴い製造効率が悪化したこと等を起因として利益が大きく減少したことによるものです。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益についてはクリアネット㈱(旧㈱ウェーブロックインテリア)株式の売却益の計上により前期比で大幅に増加しております。

### 2024年3月期業績予想について

今期2024年3月期の業績予想については、売上高は前期比8.5%増の245億円、営業利益は同13.3%減の3億円、経常利益は同52.7%減の3億40百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同92.7%減の1億70百万円と、増収減益となることを見込んでおります(この数値は本年5月12日に開示しましたアルピ東プラ㈱との資本業務提携に基づく同社株式20.32%の取得による持分法投資利益の計上前の予想となっております)。

営業利益が減少することだけに注目しますと、当社グループの稼

働力が前期に引き続き低下するようにも見えますが、我々経営陣としてはそのような理解はしておりません。非常に厳しい環境下にあるマテリアルソリューション事業の営業利益の減少も底を打ったように感じますし、引き続き収益構造改革を進めることで将来的にさらなる成

長は可能だと感じております。また、アドバンステクノロジー事業の成長は継続するものと認識しております。今期の当事業の予想営業利益は前期比17.4%減を見込んでおりますが、これは今後の成長に向けた大胆な先行投資により今期の減価償却費の見込みが前期実績と比べて2億20百万円増加することによるものです。足元の利益を優先し、将来への投資をしなければ今期は予想よりも2億円程度営業利益を増やし、前期比で増益も可能という状況にありました。その先行投資についても3～5年以内で回収可能と考えております。

加えて、アルピ東プラ㈱との資本業務提携が今後の当社グループの成長、生産性の向上に必ず寄与するものと信じております。株式持分20.32%に応じた投資利益の計上はもとより、本提携が両社の事業における損益構造改革に拍車をかける大きな原動力になるものと考えております。

前期業績の実績、今期業績の予想の数値を見ますとご心配をおかけする部分もあると思いますが、上述のような見立ての中で引き続き中長期的利益の獲得を目標に日々邁進していく所存ですので、株主様におかれましては引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役 兼  
執行役員社長

石原 智憲

# チーム一丸となって複合素材の グローバルニッチトップ企業を目指す



## Q | 2023年3月期の事業の総括をお願いします。

注力しているデコレーション&ディスプレイ分野の自動車向け販売が収益の柱として順調に育っており、今後の成長への自信が深まった1年だったと感じています。主力製品である金属調加飾フィルムは、米国自動車メーカー向け採用車種が本格量産へ移行したことにより、売上は大きく伸ばしました。この要因は、数年前より事業の現地化を進めてきたことが大きいと考えています。現地で豊富な実績を持つ優秀な幹部社員を多数採用し、現地のニーズにあった営業活動を行ってきた結果、米国メーカーへの採用が着実に増えています。もう1つの製品である高透明多層フィルムは、半導体不足による自動車生産台数の伸び悩みの影響を受けましたが受注は着実に増加してきております。

## Q | 金属調加飾フィルムが好調ようですが、その背景について教えてください。

金属のように見えるフィルム自体の競合企業は多いものの、高い耐久性が求められる自動車の外装向けを手がけられる企業は世界でも極めて限られています。当社は、金属調加飾フィルムに特化したメーカーであり、20年以上にわたっ

て蓄積した技術力は、国内外の大手企業の追随を許さないと自負しています。

また近年では、光や電波の透過が可能、金属よりも軽量、メッキと比べて環境負荷が低いなどの強みも評価され、国内外の多くの自動車メーカーで採用が広がっています。自動車産業は新規参入が非常に難しい分野です。当社が既に多くの自動車メーカーからの信頼を獲得していることは、大きなアドバンテージになります。加えて、品質に厳しい基準を持つ自動車メーカーからの信頼を高めるため、2022年9月には、自動車産業における品質管理の国際規格「IATF16949」を国内3工場で取得しました。事業を大きく展開していく上での礎になると考えています。

## Q | 近年、国内外の工場への設備投資を行っているようですが、その概要を教えてください。

いま、自動車業界は100年に一度の大変革の時代に入ったと言われており、自動車の電動化とともに、環境負荷が小さくデザイン面での柔軟性が高い樹脂製品の採用が急速に進んでいます。こうした時代の変化の波をとらえて当社の飛躍的な成長につなげるためには、生産能力の増強と品質向

アドバンストテクノロジー事業は、自動車の電動化の波をとらえ、近年、急速に業績を拡大しています。アドバンストテクノロジー事業を担うウェーブブロック・アドバンスト・テクノロジーの島田社長に、事業の強みや市場環境の見通し、持続的に成長するための施策などについて聞きました。

上が必須と考え、思い切った設備投資を決断しました。

金属調加飾フィルムでは、製造の上流工程において、フィルムの製造を行う茨城県の古河工場の製造ラインを増設して生産能力を引き上げるとともに、品質の安定化を図りました。下流工程においては、自動車向け成形部品の生産能力を増強するため、愛知県の名古屋工場の近くに名古屋第二工場を新設しました。これらの設備投資により生産能力は、金属調加飾フィルムが約6割、自動車向け部品が約4割の増強となりました。また、米国オハイオ州に新たに自動車向け部品の生産拠点を新設しました。米国の旺盛な需要に対して、フィルムから部品の成形まで一貫して販売対応することが可能となります。

さらに、岩手県の一関工場を移転拡張しました。主に自動車内装向け高透明多層フィルムの製造を行っており当面の生産能力は従来と変わりませんが、敷地面積が広く、将来的には空きスペースを活用し、金属調加飾フィルムや高透明多層フィルムの生産・加工ラインを増設することも可能になりました。

設備投資によって目先の費用負担は増大しますが、事業の成長により3～5年以内には投資を回収できるとみています。

## Q | 設備投資の効果を発揮させるためには、さらなる受注の拡大が必須と思われます。今後の重点施策について教えてください。

投資費用を早期に回収するためには、現在の最大の収益源である米国、それに次ぐ重要市場である欧州でさらに受注を拡大することが必須です。当社製品の特徴である、環境負荷の小ささやデザイン面での自由度の高さ、品質の高さなどをアピールしていきます。中長期的には、インドも重要なマーケットです。インド政府は2030年までに乗用車新車販売の3割を電気自動車とする目標を掲げています。欧米で鍛えられた高品質な製品を核に、インド市場の開拓を目指します。また、現在、日本は電気自動車の普及が海外よりも遅れておりますが、電気自動車の本格展開が始まった時に、日本発のグローバル企業として当社が製品供給できるよう、体制の構築を進めていきたいと考えています。

## Q | 最後に、会社の将来ビジョンについては、どのように考えていますか？

当社は「複合素材でクルマをはじめとする世界の工業製品の機能とデザインを変える」をコーポレートスローガンとしています。私たちが扱う製品は、必ず世の中に求められる分野の製品ですが、ニッチな製品です。お客様のニーズに応じて技術・素材を組み合わせて差別化された製品を創出することで、高い市場シェアを獲得し、「自動車の外装に使える金属調のフィルムといったらウェーブブロック」と言ってもらえることが理想です。業績については、現在の売上高は45億円ですが、早期に100億円を目指したいと考えています。売上高100億円規模になれば大規模な投資や優秀な人材の採用も容易になるため、さらなる成長に向けた戦略の幅が広がります。また、あらゆる分野で製品のライフサイクルは短くなっているため、持続的に成長するためには、絶えず新しい用途開発に取り組むとともに、新しいマーケットを見据え、予兆をいち早くつかみ、製品化していく必要があります。企業規模が拡大したとしても、こうしたマインドを持ち続けることで、100年後にも生き残る会社になれると確信しています。

当社は、若手社員に難易度の高い業務に挑戦させ、成功体験を積ませる社風があり、他社と比較してひと世代若い社員が重要なポジションに就いていることが特長です。モチベーションの高い社員が生き生きと働き、チーム一丸となって時代の変化を先取りした製品を創出し続け、持続的に成長できる企業を目指します。



島田 康太郎——略歴

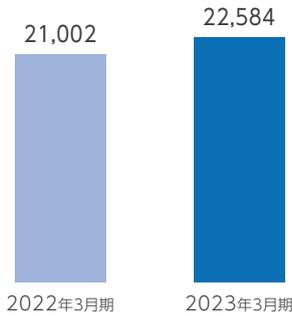
大学を卒業後、外資系の自動車関連企業に入社。その後MBAを取得し、化学企業の大企業を歴任した後、2006年に㈱日本ウェーブブロック(現㈱イノベックス)に入社。営業や新事業開発に従事し2016年より㈱ウェーブブロック・アドバンスト・テクノロジーの代表取締役役に就任、事業の成長に貢献してきた。

## 連結財務ハイライト

2023年3月期はクレアネイト(株)(旧(株)ウェーブロックインテリア)株式譲渡に伴う特別利益計上により、親会社株主に帰属する当期純利益が増加しております。

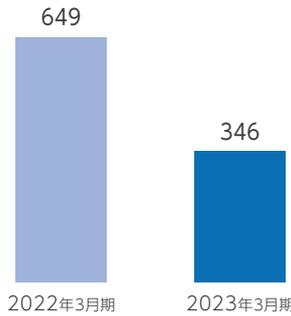
### 売上高

(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)



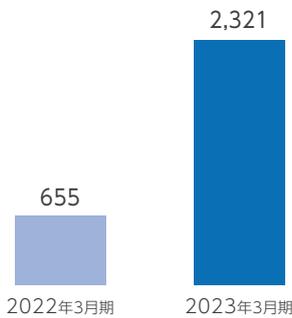
### 経常利益

(単位:百万円)



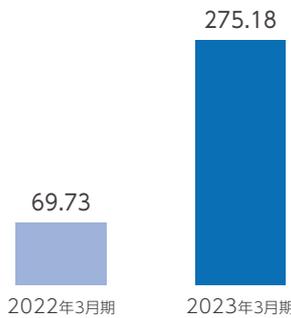
### 親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位:百万円)



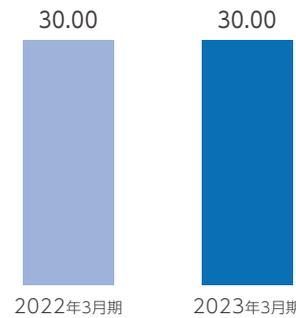
### 1株当たり当期純利益

(単位:円)



### 1株当たり配当金

(単位:円)



## 会社 / 投資家情報

### 会社概要

(2023年3月31日現在)

|        |   |
|--------|---|
| 商号     | ウェーブロックホールディングス株式会社<br>(Wavelock Holdings Co., Ltd.)                      |
| 代表者    | 代表取締役兼執行役員社長 石原 智憲  |
| 設立     | 1964年(昭和39年)6月20日   |
| 事業内容   | 持株会社、グループ全体の戦略策定、<br>資源配分、経営管理  |
| 資本金    | 21億8,504万円  |
| 本社     | 〒104-0044<br>東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー13F                                       |
| 従業員数   | (単独)48人(連結)607人   |
| グループ会社 | 連結子会社11社/非連結子会社1社<br>持分法適用関連会社1社  |
| 主要事業会社 | 株式会社イノベックス(マテリアルソリューション事業)<br>株式会社ウェーブロック・アドバンス・テクノロジー<br>(アドバンステクノロジー事業) |

### 株主メモ

|                  |   |
|------------------|---|
| 事業年度             | 4月1日から翌年3月31日まで   |
| 定時株主総会           | 毎年6月  |
| 期末配当金            | 株主確定日 3月31日   |
| 中間配当金            | 株主確定日 9月30日   |
| 単元株式数            | 100株  |
| 公告方法             | 当社の公告方法は、電子公告としております。<br>ただし、事故その他のやむを得ない事由によっ<br>て電子公告による公告をすることができない<br>場合は、日本経済新聞に掲載して行います。な<br>お、電子公告は当社のウェブサイトに掲載して<br>おり、そのアドレスは次のとおりです。<br><a href="https://www.wavelock-holdings.com/">https://www.wavelock-holdings.com/</a> |
| お取扱窓口            | お取引の証券会社等。特別口座管理の場合<br>は、特別口座管理機関のお取扱店。   |
| 特別口座管理機関<br>お取扱店 | みずほ信託銀行*<br>フリーダイヤル 0120-288-324<br>(土・日・祝日を除く9:00~17:00)   |
| 未払配当金のお支払        | みずほ信託銀行*およびみずほ銀行<br>(みずほ証券では取次のみとなります)  |

\* トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。



ウェーブロックホールディングス株式会社  
Wavelock Holdings Co., Ltd.

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問合せください。なお、みずほ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。